



小学生・中学生の皆さんへ

あらかわ区報 Jr

ARAKAWA KUHO JUNIOR

2022年[令和4年]

3.15

No.146

ジュニア

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>



地域のお祭りや商店街などで見かける昔ながらの手描提灯。提灯に文字や家紋などを描く技は、江戸から伝えられてきた伝統工芸技術の一つです。そこで今回、第三瑞光小学校のジュニア記者たちが、南千住にある泪橋 大嶋屋提灯店を訪ね、若手職人・村田健一郎さんの仕事を通して、何代にもわたって受け継がれてきた伝統工芸技術に触れます。



一日 村田健一郎さん 弟子入り

泪橋 大嶋屋提灯店の若手職人



新型コロナウイルス感染症予防のため、取材時は全員がマスクを着用していますが、撮影のためにマスクを外している場合があります。

問い合わせ 荒川ふるさと文化館
☎(3807)9234

次は5月に発行する予定です

伝統工芸技術の継承者ってどんな人かな?

今回ジュニア記者たちが取材した村田健一郎さんは、大正2年(1913)から続く老舗・洺橋 大嶋屋提灯店の四代目です。手描提灯の職人である父・修一さん(荒川区登録無形文化財保持者)の技を受け継いでいます。なぜ、村田さんは職人の道を選んだのでしょうか? また、提灯文字についても詳しく教えてもらいました。

いろいろ聞いてみよう



どうして職人の道を選んだのですか?

昔からモノづくりが好きで、何かの職人になりたいなと思っていました。実家が提灯屋だったということもあり、子どものころから提灯作りの色塗りなどの手伝いをしていました。そのため、この文化をなくしたくないと感じて店を継ぐことにしました。今でこそ提灯にいろいろな文字や絵を描いていますが、昔はプラモデルのような立体的なモノづくりのほうが得意でした。



提灯文字や道具について教えてください

提灯文字は「面相筆や平筆など少しずつ太さの違う筆」や「水にぬれても流れない専用の塗料」を使って描かれています。また、家紋を形作る円や模様を描くために「ぶんまわし」と呼ばれる大きな木製のコンパスも使われています。提灯文字は提灯に文字や家紋などを描く技術です。江戸時代、提灯は、携行用の照明具として広く使用されました。文字や家紋などを描き、儀式や祭礼、店舗用の看板としても用いられました。文字の線を太くする理由は、提灯を飾った時に遠くからでも文字がはっきり読めるようにするためです。

描く円の大きさによって、使う「ぶんまわし」の大きさも変えていきます。使い込まれた道具には、職人の技術と歴史が詰まっているようです



村田さんが描いているのは文字だけじゃないよ!

歌舞伎の舞台上で使われる小道具も手がけている村田さん。提灯と同じ技法で模様を描かれた傘は、4つ合わせると模様の家紋の形になります。提灯のあら坊とあらみのイラストも村田さんが描きました。お客さんが持ち込んだデザインやイラストも提灯の絵柄にすることができます



桑原明莉さん

勝又杯音さん

Kenichiro Murata



村田健一郎さんはこんな人

荒川区生まれ。伝統工芸技術の継承者を育てるために区が行っている、「荒川の匠育成事業」を活用して修業。荒川区登録無形文化財保持者である父・村田修一さんに弟子入り。荒川区伝統工芸技術保存会会員。

はばたけ! 若手職人展(ウェブ版)

村田さんをはじめ、区内には伝統工芸技術を受け継ぐ若手職人がたくさんいます。チェックしてみよう!



あらかわ伝統工芸 Week

3月19日(土)~3月27日(日)で開催
村田さんの実演や体験もあるよ
問合せ 荒川ふるさと文化館

自分の名前を提灯に描いてみよう!



村田さんに習って、ジュニア記者たちも提灯文字の手描きにチャレンジ! 下書きは、ジュニア記者たちには難しいので、村田さんが書いてくれました。というわけで、ジュニア記者たちは文字の縁取りからスタート。「名前前の画数が多いから大変」と桑原さん。勝又さんは「緊張します」と少しずつ丁寧に作業を進めます。



村田さんに習う



▲村田さんの作業を見つめるジュニア記者たち。村田さんは提灯にはられた和紙に、鉛筆で文字の下書きをしています。紙を破らないように、繊細な力加減が必要です



▲下書きが終わったら、線の上をなぞって縁取り。文字の外側の形を整えてから、線の中を塗りつぶす作業をします

▲「明かりを点した時、色ムラが透けて見えないようにするため、筆先で塗料の厚みを調整するのがポイント」と村田さん



鮮やかな赤色の塗料を選んだ桑原さん。文字の細い部分を慎重に塗っていきます



明るい青色の塗料で文字を塗っていく勝又さんは、真剣な目つき。筆の使い方も慣れてきました

上手にできました!



塗料を乾かしたら手描提灯の完成です。「ムラなく塗るのが難しかったです」と勝又さん。桑原さんは「職人さんの仕事はすごいなと思いました」と笑顔。ジュニア記者二人の提灯は村田さんも絶賛する素敵な出来栄になりました

提灯の種類

提灯の形は、使われる場所や用途によっていろいろな変化を遂げてきました。村田さんが持っている2つの提灯は、上下の蓋を重ねて小さくしたものが「箱提灯」です



▲今回の体験で使ったのは、弓のような形の持ち手が付いた「弓張提灯」。ボールに似た形のは「丸型提灯」と呼ばれています



洺橋 大嶋屋提灯店
ご案内

荒川区南千住
2-29-6
☎(3801)4757

令和3年度 防災部 活動レポート

みんなで楽しく活動しているよ!

平成27年度に区内の全中学10校で部活動の一環として防災部が創設されました。昨年度に引き継ぎ新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの活動が中心になりましたが、今年度の防災部の活動を報告します!

| | |
|-----|---|
| 1学期 | 被災地訪問事前学習 |
| 夏休み | 被災地訪問(オンライン交流)、被災地訪問報告会@ゆいの森あらかわ |
| 2学期 | 中学生防災対策会議(第1回)オンライン被災地訪問報告会@各中学校 |
| 3学期 | 中学生防災対策会議(第2回)地域拠点備蓄倉庫見学(新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止) |
| 通年 | 防災検定の受検推進 |

6月26日 被災地訪問事前学習

毎年行われている被災地訪問のためにみんなで事前学習。各中学校から2年生2名が参加しました。



夏休み / 7月27日 被災地訪問(オンライン交流)

今年も新型コロナウイルス感染症のため、釜石市などの被災地には行くことができませんでした。災害時に「避難所へ持っていくもの」や「避難所で誰からお弁当を配るべきか」など、防災についての意見交換をすることで、新たな気付きもありました。来年こそは、釜石市の中学生と会って直接交流をしたいです!

画面越しのゲームだったけど、楽しかったです!

オンラインでカードゲーム



テレビの取材を受けて少し緊張気味

釜石東中学校の生徒たちと区内の防災部部長が全員集合!




8月27日 ゆいの森あらかわで被災地訪問報告会



ゆいの森あらかわゆいの森ホールで被災地訪問報告会

けがをした人の救助訓練をじつえん実演したよ!



各中学校での活動 / 中学生防災対策会議(第1回)オンライン被災地訪問報告会

10月15日に第四中学校防災部2年生の吉本さんと細田さんが、全校生徒に向けてプレゼンテーションソフトでまとめた訪問報告を行いました。オンライン交流を通じて学んだことをわかりやすくまとめており、全校生徒みんなで防災についての意識を高めることができました。

第四中学校防災部の吉本さんと細田さん



Topics

「小学校図画工作展」が開催されました

1月12日から18日まで、アクト21(男女平等推進センター)で「小学校図画工作展」が開催されました。令和3年度は『わたしからはじまる〜かんじる・ためすから広がる思い〜』のテーマのもと、区内の小学生が授業などで制作した絵や工作などが展示されました。会場にはさまざまな作品が並び、多くの方が見に来ていました。色とりどりの絵や迫力のある作品がたくさん並び、楽しさあふれる会場となりました。



小学校図画工作展の様子

元気いっぱいのお作品です!

あらかわ 今昔ものがたり [あらかわの歴史と伝説]

その136 子どもの成長を祈る伝統行事「雛祭」とお雛様

赤ちゃんが健やかに育つようにと祈る気持ちは、今も昔も変わらない。女の子が生まれた家庭では、年が明けると赤ちゃんの成長と幸せを祈る大切な行事の準備が始まる。何の行事かわかるかな? そうそう、「雛祭」だね。

♪今日は楽しい雛祭♪ 雛祭は3月3日に行われる「桃の節供」とも呼ばれる行事。お雛様(雛人形)を飾ってお供えをいただく楽しいお祭りだね。今では、雛祭ケーキでお祝いするけど、昔は白酒・菱餅・豆炒などをお供えしたんだって(『東京年中行事』)。あらかわに昔から住んでいるお年寄りによれば、菱餅・煮しめ・果物・野菜・さざえ・蛤などをお供えしたそうだよ(『尾久の民俗』など)。随分と盛大だったんだね。

お雛様の今昔 元は紙製の雛様や道具を並べる人気の遊びで、「雛遊び」と呼ばれていた。江戸時代の初めの頃には道具が立派になり、飾る雛様の数も増えてきた。そのうち、紙などでできた人形を水辺に捨て流してケガレを祓う「上巳」という行事と合わさって、雛飾りを楽し

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

「雛祭」になったんだけ。みんなが知っている内裏雛(親王雛)が流行するのは、江戸時代の終わりの頃だったんだよ。

お雛様を生み出す人形師 お雛様はお正月から春先にかけてデパートや人形専門店に華やかに展示されているよね。江戸時代は、ちょっと変わった場所で売られていたんだ。十軒店の通り(現中央区日本橋室町)に2月25日から3月2日まで「雛市」が立ち、すごく賑わったそうだよ(『東都歳事記』)。ここに並べられていたお雛様は、人形師と呼ばれる職人さんたちが一体一体作り上げたものなんだ。

あらかわでは、子どもの健やかな成長を願う気持ちを込めて人形作りにはげむ職人さんが活躍している。今度、荒川ふるさと文化館のイベント「あらかわ伝統工芸Week」(3月19日~3月27日)で展示されるよ。素敵なお雛様に会いに来てね。



江戸名所百人美女十軒店(国立国会図書館蔵)



区指定無形文化財保持者・竹中重男(幸甫)作「親王飾」